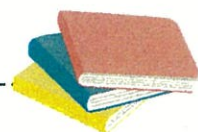


令和2年 11/25 Wednesday 水曜日

「これからの観光を考える」

～なぜ、地域振興に観光が必要なのか、今後とるべき戦略とは?～



午前の部 (9:10-12:00)

午後の部 (13:00-17:00)

9:10~9:20 開塾挨拶、趣旨説明
開塾式
尾久土 正己 氏 (和歌山大学 観光学部長)

13:00~13:40 「空港を起点とした南紀熊野の地域活性化とは?」
～民営化空港会社による空港型地方創生の挑戦～ 南紀熊野の事例 森重 良太 講師

9:20~10:10 「世界から見た南紀熊野のこれからの観光と地域振興を考える」
藻谷 浩介 講師
特別講演
山口県生まれの56歳。平成合併前の全3,200市町村、海外114ヶ国を自費で訪問し、地域特性を多面的に把握。地域振興、人口成熟問題、観光振興などに関し研究・著作講演を行う。2012年より現職。著書に「日本の正体、聖山資本主義 (KADOKAWA)」、完本「しなやかな日本列島のつくりかた (新潮社)」、近著に「進化する聖山資本主義 (Japan Times)」、世界まちかど地政学Next (文藝春秋)。

13:45~14:25 「顧客データベースを活用した自主自立への道」
～顧客情報を地域でシェアする仕組みと自主財源、自立への道～ 気仙沼の事例 森 成人 講師

10:10~11:10 「選ばれ続ける地域とは?」～地域振興になぜ観光が必要なのか?～
山田 桂一郎 塾長
塾長講演
激変する時代の中でも生き残る観光のあり方は? 新型コロナウイルスの感染拡大にともなう移動制限や自粛によって観光産業はこれまでにない大きなダメージを受けています。しかし、人々のどこかに出かけたという欲求は、その本質にかながみんと決して無くなってしまおうものではありません。いまだからこそ地域にとって大切なものは何か? わざわざ行きたくなる地域の価値とは何なのか? 観光を軸とした持続可能な地域振興がなぜ必要なのかをあらためて考えてみましょう。さまざまな活動主体から選ばれ続ける地域のあり方をその本質からわかりやすく解説し、明らかにしていきます。

14:40~15:25 論点整理「なぜ、地域振興にマーケティングが重要なのか?」
コーディネーター: 出口 竜也 (和歌山大学観光学部 教授)
講師: 山田 講師、竹林 講師、榎垣 講師、森 講師、森重 講師
トークセッション
現状の認識は充分でしょうか。カンと経験に頼るだけでは現状を正しく認識するのは困難です。顧客のニーズの変化的確につかむこと、そのためにはマーケティングを正しく理解することが重要です。近年の観光関連産業の現状から今後取り組むべき問題・課題を整理します。

11:20~12:00 「インバウンド・着地型観光・観光地域づくり法人(DMO)の現状と課題」
観光庁観光地域振興部観光地域振興課 広域連携推進室長 (兼) 観光地域づくり法人支援室長
観光庁の政策 榎垣 敏 講師
講師講演
新型コロナウイルスの感染拡大にともない、人々は異日常を求めて外国を訪れることが事実上極めて困難な状況になっています。当面の間、外国人観光客の来訪がほぼ見込めない中、あらゆる地域において観光戦略の根本的な見直しが必要とされています。観光庁による支援策の実例を示すと同時に、地域の現状と課題についてお話しします。

15:25~15:45 コーヒーブレイク & 個人ワーク
個人ワーク
各自の行動や事業者としての選択を振り返り、机上に用意されたフリップに書き出してアウトプットしてもらいます。皆さんが取り組もうとしている事業の目的やビジョンは何でしょうか? どのように実現させるのでしょうか? 戦略と戦術は明確に整理できていますか? あるべき姿を実現するため、今後どのように取り組むのが望ましいのでしょうか? 短期、中長期に分けて整理してみましょう。足りないものは何か見えてきましたか? 持続可能で選ばれ続ける事業経営のあり方をとことん考えてみましょう。配布されたワークシートを活用し、ここまでのカリキュラムで得た知識を整理するとともに、自身の考えをまとめてもらいます。 質問カード、チャット、QA受付

12:00~13:00 昼食 青空の下でお弁当
コロナウイルス感染防止対策のため、室内での交流会はいたしません。昼食時は弁当を配布しますので館内の中庭や屋上の芝生でお召し上がりください。混雑を避けるため、会場参加の方の机に弁当チケットを配布しておりますので分散して受付にて引き換えてください。色別にお呼びいたします。

15:45~16:15 ローカルカフェ 非接触バージョン フリップトーク
ローカルカフェ
参加者と講師の意見交換タイム
山田 講師、出口 講師、竹林 講師、榎垣 講師、森 講師、森重 講師
整理した考えを共有します。カフェを楽しみながら受講者全員と講師による意見交換を行います。

会場参加は南紀熊野地域の方限定です。
同時にZoomでのオンライン配信を行います。会場の様子が配信されますので映り込みがNGな方は事前にご連絡ください。
※会場の開館時間は9時です。スムーズな運営にご協力ください。記載内容は変更することもあります。

16:20~16:50 「次なる一歩に向けて今できることは何か」
山田 桂一郎 塾長
塾長講演
カリキュラムを振り返り、ポイントの再整理を行います。どのような地域もさまざまな業種が存在することで成り立っています。一事業者の繁栄だけでは、地域を支えることはできません。また、楽しく暮らせない地域からは人口がどんどん流出してしまいます。どんなに観光地化をめざしても、そこが幸せを感じられる地域(感嘆地)でなければ持続可能な取り組みには結果しません。あらためて、持続可能な地域経営のあり方を「4方よし」で考えます。

16:50~17:00 閉塾式 閉会挨拶
出口 竜也 氏 (和歌山大学観光学部 教授)

ゲスト講師: 榎垣 敏氏
観光庁観光地域振興部観光地域振興課 広域連携推進室長 (兼) 観光地域づくり法人支援室長
【榎垣 敏 (むがき せつし)】

ゲスト講師: 森 成人氏
じゃらんリサーチセンター JRC 研究員 気仙沼市復興アドバイザー (一社) 気仙沼地域戦略 理事
【森 成人 (もりなるひと)】

ゲスト講師: 森重 良太氏
株式会社南紀白浜エアポート 誘客・地域活性化室長
【森重 良太 (もりしげりょうた)】

ゲスト講師: 此松 昌彦氏
和歌山大学教育学部 教授 和歌山大学南紀熊野サテライト代表
【此松 昌彦 (このまつまさひこ)】

ゲスト講師: 山田 桂一郎氏
JTIC.SWISS 代表、日本エコツーリズム協会理事、観光カリスマ 和歌山大学 南紀熊野サテライト 客員教授
【山田 桂一郎 (やまだけいいちろう)】

「南紀熊野観光塾」塾長挨拶<塾の目的>

今年で8期目を迎える南紀熊野観光塾は、「選ばれ続ける地域」をモットーに、魅力的で持続可能な地域づくりの仕組みを担う中核的な人材を育成することを目的とした塾です。「選ばれ続ける地域」では、住民が誇りをもって幸福に、そして楽しく暮らしています。では、どのような地域をめざせば住民も訪れる人々も幸せを感じることができるのでしょうか。南紀熊野観光塾では、それを本質から考え抜くとともに、さまざまな分野から参加された塾生の方々との間で意見交換をしていきたいと考えています。あらためて地域づくりや観光について学び直すだけでなく、生涯にわたり一緒に活動を続けることができる同志を見つける場としても大いに活用してください。

南紀熊野観光塾 塾長: 山田 桂一郎 (やまだけいいちろう)

「南紀熊野観光塾」塾長紹介

塾長: 山田 桂一郎 JTIC.SWISS 代表、日本エコツーリズム協会理事、観光カリスマ 和歌山大学 南紀熊野サテライト 客員教授
2005年に観光カリスマ (内閣府・国土交通省 (観光庁)・農林水産省認定)、「世界のトップレベルの観光/ウハウハウを各地に広めるカリスマ」として、これまでの欧州を中心とした環境保全 (環境保護・保全活動プログラム、環境教育、環境アセスメント等)、海外在住者として初めて日本の環境省に登録された環境カウンセラーと世界各地における滞在プログラム・ツアーの実施と観光・異文化交流の事業化、マーケティング、ブランディングの経験を活かし、観光・地域振興 (まちあこし)・自立型地域経営、人材育成、中心市街地・商店街活性化、一次産業振興等に関する講演やセミナーの講師として全国各地から招聘されている。また、地域振興のコンサルタントとして多方面で様々な事業化 (特に地域経営マネジメントの組織化) を進め、多くの実質的な成果と結果を残す。2011年には週刊日経ビジネス誌において「次世代を創る100人」の一人として選出された。民間企業やNPO法人の他にも、多くの省庁や地方自治体の委員、プロデューサー、コーディネーター、アドバイザーを務め、大学や高等教育機関でも教鞭をとっている。欧州では、ヨーロッパ・アルプス並びにスイス全土に渡る取材・撮影のコーディネーター、ライター (日本旅行作家協会会員)、ビデオカメラマン、通訳としても活動。冬は、現地で唯一の日本人スキーインストラクター、夏は、ハイキング、トレッキングガイドでもある。スポーツに関しては、山以外でもセーリング(ヨット競技の元国体選手)であり、パラグライダーも空も飛ぶ。陸奥の空をフィールドとしている。
主な著書: 「観光立国の正体」新潮新書 (藻谷浩介氏との共著)
「知られざる日本の地域力」今井出版 (佐川昭彦氏との共著)
「しなやかな日本列島のつくりかた」新潮文庫 (藻谷浩介氏との共著)

塾長プロフィール

- 三重県津市生まれ
- 1987年 スイス・ツェルマット観光周日本人対応インフォメーション、セールスプロモーション担当
- 1992年 JTIC.SWISS (スイス日本語インフォメーションセンター) 設立
- 1996年 環境省環境カウンセラー (事業部門)、スイス・ヴァレー州観光局日本・アジア向けプロモーション担当
- 1999年 M.6 (ベスト・オブ・ザ・クラシック・マウンテンリゾート) 環境政策とCS (顧客満足度促進) 顧問
- 2003年 環境省環境カウンセラー (市民部門)
- 2004年 特定非営利活動法人日本エコツーリズム協会理事、まちづくり観光研究所 所長 研究員
- 2005年 内閣府、国土交通省、農林水産省「観光カリスマ百選」認定
- 2006年 日本エコツーリズム協会環境推進委員
- 2010年 総務省「地域力創出アドバイザー」
- 2011年 和歌山大学進学連携研究センター 客員教授、北海道大学観光高等教育センター 客員准教授
- 2014年 につばな 松谷みどり協会 代表
- 2015年 内閣府「地域活性化伝道師」、和歌山大学教育政策アドバイザー
- 2016年 内閣府「ケルジャパン地域プロデューサー」、北海道大学観光高等教育センター 客員教授、奈良国立大学客員教授、ジャパンエコツーリズム推進協議会理事
- 2017年 和歌山大学南紀熊野サテライト 客員教授
- 2020年 富山福地短期大学 客員教授

「南紀熊野観光塾」講師紹介

講師: 出口 竜也 和歌山大学 観光学部 観光学科 教授
【出口 竜也 (でぐち たつや)】和歌山大学 観光学部 観光学科 教授
1964年石川県金沢市生まれ。1987年富山大学経済学部卒業。1991年神戸商科大学 (現兵庫国立大学) 大学院経営学研究科博士前期課程を中退し、徳島大学総合科学部専任講師に就任。同学部助教授を経て、2007年和歌山大学経済学部観光学科教授に転任。2008年より現職。専門は経営組織論、経営戦略論、観光経営論。近年は、人文学的アプローチによる経営学研究や産業集積研究に高い関心を持っている。また、国際産業集積研究センター (IARCI) 理事、いき文化デザイン研究所理事、日本うどん学会評議員など、幅広い分野で要職を務め、学際的な活動を進めている。
(著書)「日本の経営の本流—松下幸之助の発想と戦略— (共著、PHP 研究所 1997年)」、「ケースブック現場イズムの海外経営 (共著、白桃書房 1997年)」、「社員の経営人文学 (共著、東方出版 1999年)」、「経営学への旅立ち (共著、八千代出版 2001年)」、「企業博物館の経営人類学 (共著、東方出版 2003年)」、「ケースブック・ビジネスモデルシナジー (共著、文芸堂 2007年)」、「経営戦略の基礎 (共著、東洋経済出版 2007年)」、「会社文化のグローバル化 (共著、東方出版 2007年)」、「新グローバル経営論 (共著、白桃書房 2007年)」、「経営理念—継承と伝播の経営人類学研究— (共著、PHP 研究所 2008年)」など。

講師: 竹林 浩志 和歌山大学 観光学部 観光学科 准教授
【竹林 浩志 (たけやしひろし)】和歌山大学 観光学部 観光学科 准教授
1970年大阪府生まれ。1995年関西大学法学部卒業。2000年関西大学大学院法学研究科博士課程後期課程を単位取得退学し、大阪明徳大学 (現大阪経済大学) 観光学部専任講師に就任。同学部助教授を経て、2007年和歌山大学経済学部観光学科准教授に就任。2008年より現職。専門は観光組織論、経営戦略論、リーダーシップ論。近年は、観光地における戦略主体の移行や組織的凝集力などを中心とした経営学的研究に高い関心を持っている。また、観光庁「観光地域づくり人材育成ガイドライン検討会」委員も務めた。
(著書)「現代のチーム制—理論と役割—」(共著、同文館、2003年)、トライブ「観光経営戦略—戦略策定から実行まで—」(共著、センゲジラニング、2007年)、『ホーソン実験の研究—人間学としての経営の源流を探る—」(共著、同文館、2008年)、『観光入門—観光の仕事・学習・研究をつなぐ—」(共著、新報社、2011年) など。

講師: 此松 昌彦 和歌山大学 教育学部 教授 和歌山大学南紀熊野サテライト 代表
【此松 昌彦 (このまつまさひこ)】和歌山大学 教育学部 教授
1963年東京都生まれ。1987年東海大学海洋学部卒業。1996年大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程を単位取得退学し、南山大学現代学研究所へ就職。1999年和歌山大学教育学部助教授に就任。2008年より現職。2010年より和歌山大学防災研究センター 長を併任。専門は地質学、古環境学、防災教育、和歌山県では新近世の地質、特に第四紀の古環境について研究している。学校や地域での防災教育プログラムを開発している。最近では南紀熊野ジオパーク推進協議会の学術専門委員として、南紀熊野ジオパークをサポートしている。ジオパークから地域住民が、住んでいるところの自然史を学び、災害に対して備えるためのプログラムを研究している。